

---

# 涙なんてただの水じゃない

こをり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

涙なんてただの水じゃない

### 【Nコード】

N21650

### 【作者名】

こをり

### 【あらすじ】

突然出てきた水の意味は？

(前書き)

相変わらず、支離滅裂 W

「泣いた所で何も解決しないんだから。  
いい加減学習してよね」

タケルに言われた

よく分からないど涙が出てきたから唇を噛んで止めようと躍起になる  
こういうときに限って止まってくれないんだようなあ

ああ、そうかこれは涙じゃなくて水なんだ

「だいたい俺さーお前の事好きじゃなかったんだよな  
何て言うかしようがねーなって感じだったし」

体の何割が水なんだっけ？それが全部なくなったら私、どうなるん  
だろう？

まあいいや。どうせこれから数日抜け殻みたいになうだけだもん  
水を沢山消費すると思うから・・・うん帰り道にミネラルウォーター  
ー買わなきゃ

「だからさー泣くのやめてくんない？  
俺が悪いみたいじゃねえーか」

あ、携帯電話充電したかな？友達に明日の事聞かなきゃ  
化粧とか・・・大丈夫よね？水には強いって書いてたけど落ちてな  
いかな？

はあー明日もまた仕事だし

「あのさあ聞いてる？  
俺が、別れたたって、言ってるの」

最近仕事辛いんだよねえ。ババア達すごくうるさいし  
ほとんどの友達結婚していくし、こっちの事も考えろよ（金が無  
くなっていくう）

母さんも父さんもお見合いの話ばかり持ちってくるからなあ

仕事、結婚、私の恋愛

あれ？こいつなんでココにいるんだっけ？

私なんで目から水が出てるんだろ？

「だからさあー」

「ねえ」

「あゝ？」

「帰っていい？目から水が止まらないから」

「は、はあ！？おま、え？え？」

「別れたいんでしょ？ってか私達付き合ってたっけ？」

「意味わかんねえ事言ってるじゃねえ！！俺から告白しただろうが  
！！」

「ふゝん？「だいたい俺さあーお前の事好きじゃなかったんだよな  
何て言うかしようがねーなって感じだったし」・・・ってそっちの  
が意味わかんなくない？」

「っ！ななな・・・ちげえーよ！」

「バイバイ、えゝとサヨウナラが良いのかな？」

そう言うとタケルは真赤な顔をしてブチギレていた。

そのまま18禁くらいのことを喋ってたけどここ会社だって分かってるのかな？

ふと、視界の端に同僚がいてうずくまっている。

あの様子じゃ死因は『笑いすぎ』だわ

「おおお俺の事と好きだったんだろ！？だから涙でてんじゃねえーか！ー」

「・・・いやだからコレ水だって」

「てめえ！馬鹿にするのもいい加減にしやがれ！ー」

まだ何か言ってるけど手は出す気はないみたい  
まあ体ひよろいし、ここ会社だもんね  
でも、ほんと何で出てきたんだろう？

「あ、だからか」

「クソツタレ！！お前なんか \$ # ! ! ! !」

「ほんとバイバイ私コレを伝えなきゃ！」

「はあ！！つてオイ！！」

走った。

私は走って走って、いつもはエレベーターなのに待つすら我慢できなくて階段を使った

ああクソ！なんでヒールなんてものがこの世に存在するんだ！！

Bannon！！

力づくで思いっきり開けた扉

その先に見えたのは、あの頃と同じ青すぎる空。

場所は屋上。

私の愛しい人が飛んだ場所

「今日だったんだ！今日だった！！ごめん、あのときの言葉忘れてたんだ！！」

大声で叫んだ言葉は喉を潰すくらいの声量で  
誰もいない屋上で止まらない水を私は止めなかった

タケルが言っていた

「泣いた所で何も解決しないんだから。  
いい加減学習したら？」

この言葉に私の瞳は、脳は、記憶が反応したんだ

「あんたが、あんたが最後に言ってくれた言葉！  
最後の、皮肉で、最後の・・・アドバイスだったんだ」

ずっと忘れてたのは、あんたと一緒にその時の記憶が飛んだから  
今、この瞬間に戻ってきた。戻ってきてくれた

「私も、連れてけよお」

大丈夫、嘘よ

まだ私はあなたに会えない。それくらい分かってるから  
泣かないって決めた。今、決めた

「待ってて」

この言葉が、精一杯の強がり

（後書き）

この小説を読んではあ？と思った方

それが普通です（笑）



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2165o/>

---

涙なんてただの水じゃない

2010年10月10日00時22分発行